

積貞棟 7 階

(消化器内科)

1. 看護単位の概要

病 床 数 36 床

消化器内科 30 床 麻酔科 1 床 共通 5 床

2. 部署の特徴

1) 消化器内科

肝臓・胆嚢・膵臓・胆管・消化管（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・直腸）の疾患を対象としており、主に、膵臓がんや肝細胞がんをはじめとする消化管の悪性疾患や、胃や大腸ポリープなどの良性疾患、潰瘍性大腸炎・クローン病など炎症性疾患、肝硬変などの治療を行っている。これらの疾患に対して、抗腫瘍効果を目的としたがん薬物療法や内視鏡手術・検査、RFA・TACE などの内科的治療を行っているが、その中でも、カテーテルを使用した造影検査やドレナージなどは侵襲性が高く、検査処置後には短期間であるが密度の高いケアが必要となる。

炎症性疾患やがん薬物療法、血管造影での塞栓治療などを受ける患者は、再発や病気の増悪のため入退院を繰り返すことも多く、治療経過が長期に及ぶため継続看護が求められる。また、終末期の患者に対しては、患者本人のみならず家族も含めた看護ケアが必要とされ、がんサポートチームや地域ネットワーク医療部など他部門との連携を強化し、患者やその家族をチームで支援している。

また、吐血や下血・急性膵炎・胆管炎・肝性脳症などの緊急入院が多いのも当該科の特徴であり、常に迅速でかつ柔軟な対応が必要である。

2) 共通

様々な診療科が共通して使用できる病床である。